第７回　コメ政策と飼料用米に関する意見交換会２０２２

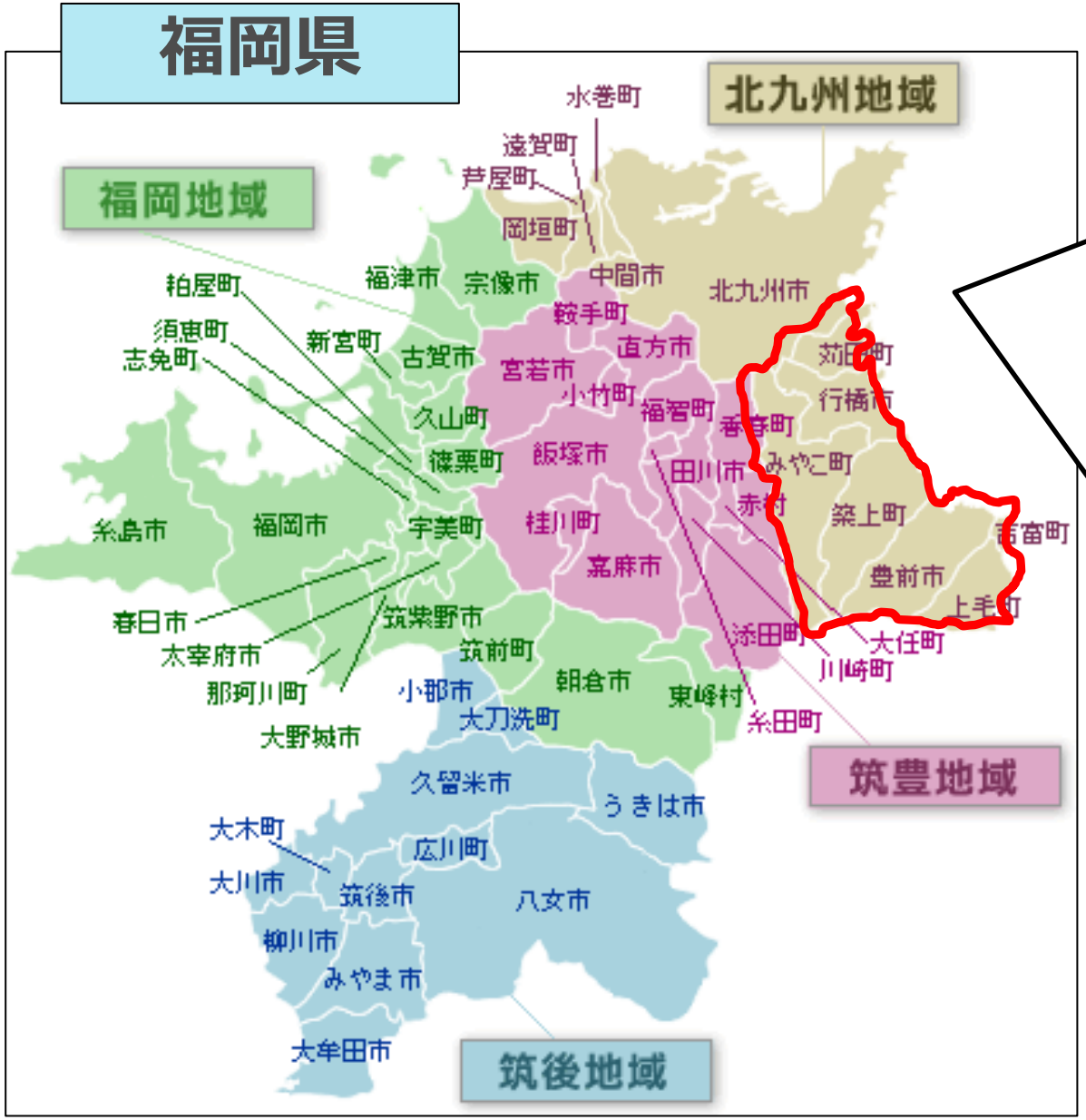
# 飼料用米を利用した
# 畜産物のブランド化に向けた取り組み

城井ふる里村　有限会社　代表取締役　徳永　隆康

# 講演の内容について

- １　　会社概要・養鶏場について
- ２　　飼料用米の利用について
  - －１　始めたきっかけ、飼料用米受入方法
    京築地区の飼料用米生産状況
  - －２　鶏への飼料給与方法
  - －３　飼料用米利用によるメリット、
  - －４　失敗したこと、工夫したこと
- ３　　ブランド化のための取り組み
- ４　　今後の課題・要望

# １－１　「城井ふる里村」の位置図




## 福岡県築上郡築上町

面積：約120km²
人口：19,051人
農業産出額：23億1千万（H26）

# １－２　会社概要

- 会　社　名　:城井ふる里村　有限会社
- 代表取締役:徳永隆康
- 所　在　地　:福岡県築上郡築上町下香楽548
- 従 業 員 数 :生産部門5名、直売所1名、その他パート等20名
- 沿　　革:

| 年月 | 会社沿革 |
|---|---|
| 大正11年 | 祖父が北九州市門司区に徳永養鶏場を開業 |
| 昭和48年 | 築上郡旧築城町の現在地に移転 |
| 平成15年 | 法人化し、徳永養鶏場から城井ふるさと村（有）に改称<br>鶏肉加工・直売施設を開設 |
| 平成20年 | 飼料用米の利用を開始 |

# １－３　養鶏場概要

- 鶏　　舎：　低床開放式ひな壇2段鶏舎　21棟
- 鶏　　種：　純国産鶏ゴトウの「もみじ」と「さくら」※米卵はもみじ
- 飼養羽数　：　成鶏20,000羽、育成鶏8,000羽
- ブランド卵　：「築上の米卵」
- 産　卵　量：　400t/年　（うち米卵　20t/年）

城井ふる里村養鶏場

鶏舎内

# １－３．１　施　　設

直売所（外観）

直売所横食事処

鶏肉（直売所内）

鶏卵（直売所内）

# １－３．２　施　　設

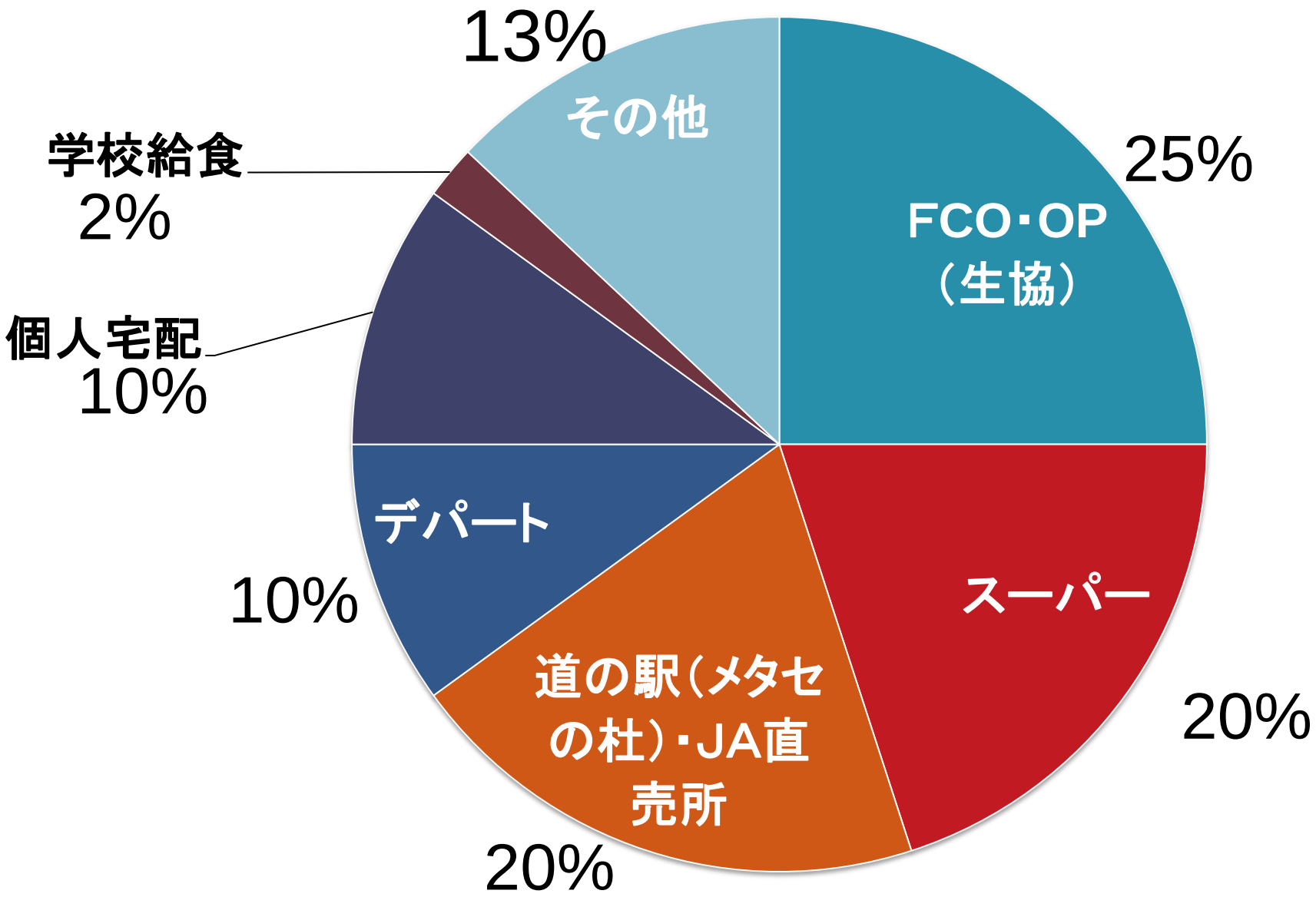
近隣農家の野菜等の委託販売（直売所内）

ケーキ販売所（直売所内）

玉子かけご飯（直売所内）

バーベキュー施設

# １－４　納品先


13%
その他
25%
FCO・OP
（生協）
学校給食
2%
個人宅配
10%
デパート
10%
スーパー
20%
道の駅（メタセの杜）・JA直売所
20%

# ２－１．１　飼料用米の利用について

## 利用し始めたきっかけは？

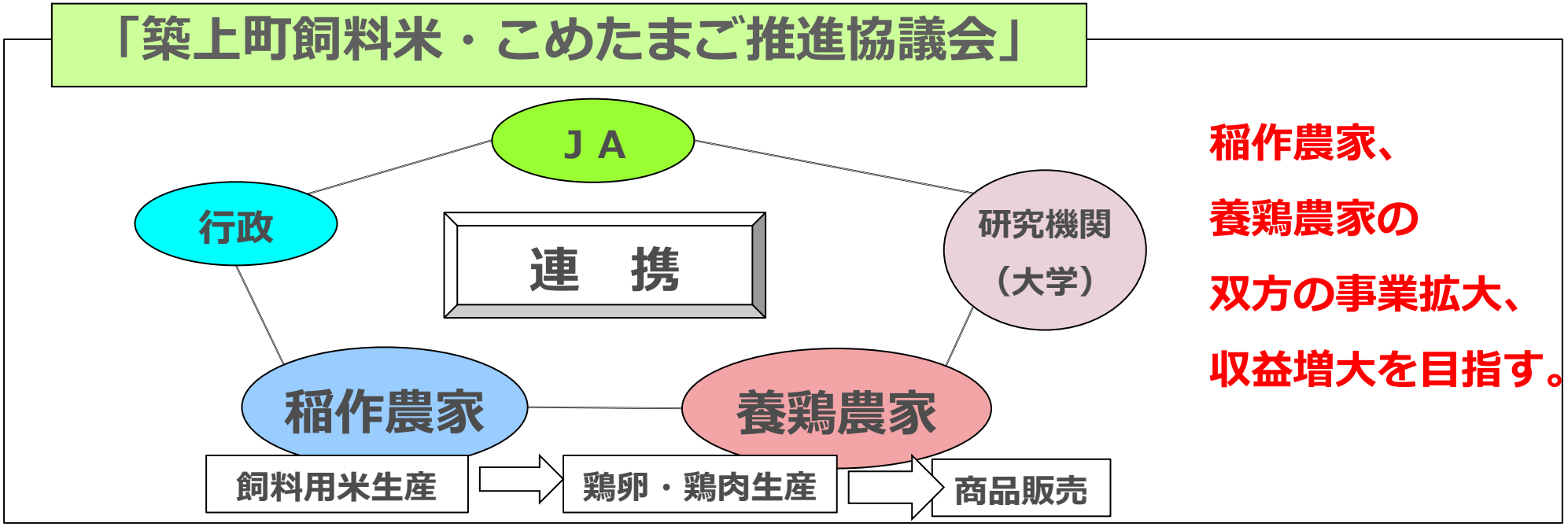
①H18年から輸入トウモロコシ価格が高騰し始めたこと

②H19年度に九州沖縄農研センター筑後拠点で作出した多収品種「西海203号」の モミ米を譲り受けたこと。

**飼料用米利用開始**

| 年 | 取組内容 |
|---|---|
| 平成20年 | 築上町で飼料用米の作付（5ha）を始めた。 |
| 平成21年 | 「西海203号」が「ミズホチカラ」として正式に品種登録された。 |
| 平成22年 | 「築上町飼料米・こめたまご推進協議会」を立ち上げ、国産飼料資源活用促進総合対策事業を利用した。 |
| 平成27年 | 作付面積は48haまで拡大した。 |

# ２－１．２　飼料用米の利用について




**主な活動内容**　Ｈ２２年度国産飼料資源活用促進総合対策事業（飼料用米利活用）

（１）飼料用米栽培実証調査

（２）飼料用米給与による家畜への影響調査

（３）飼料用米を利用した畜産物の成分分析

# ２－１．３　飼料用米の利用について

## 栽培品種は？

**ミズホチカラ（西海203号）**

※Ｈ２１年に品種登録

**一般的な特徴**

- 九州を中心とする暖地栽培に適す
- 倒伏に強く低コスト栽培に適している。
- 玄米収量が一般主食用米より約20%多くとれる。

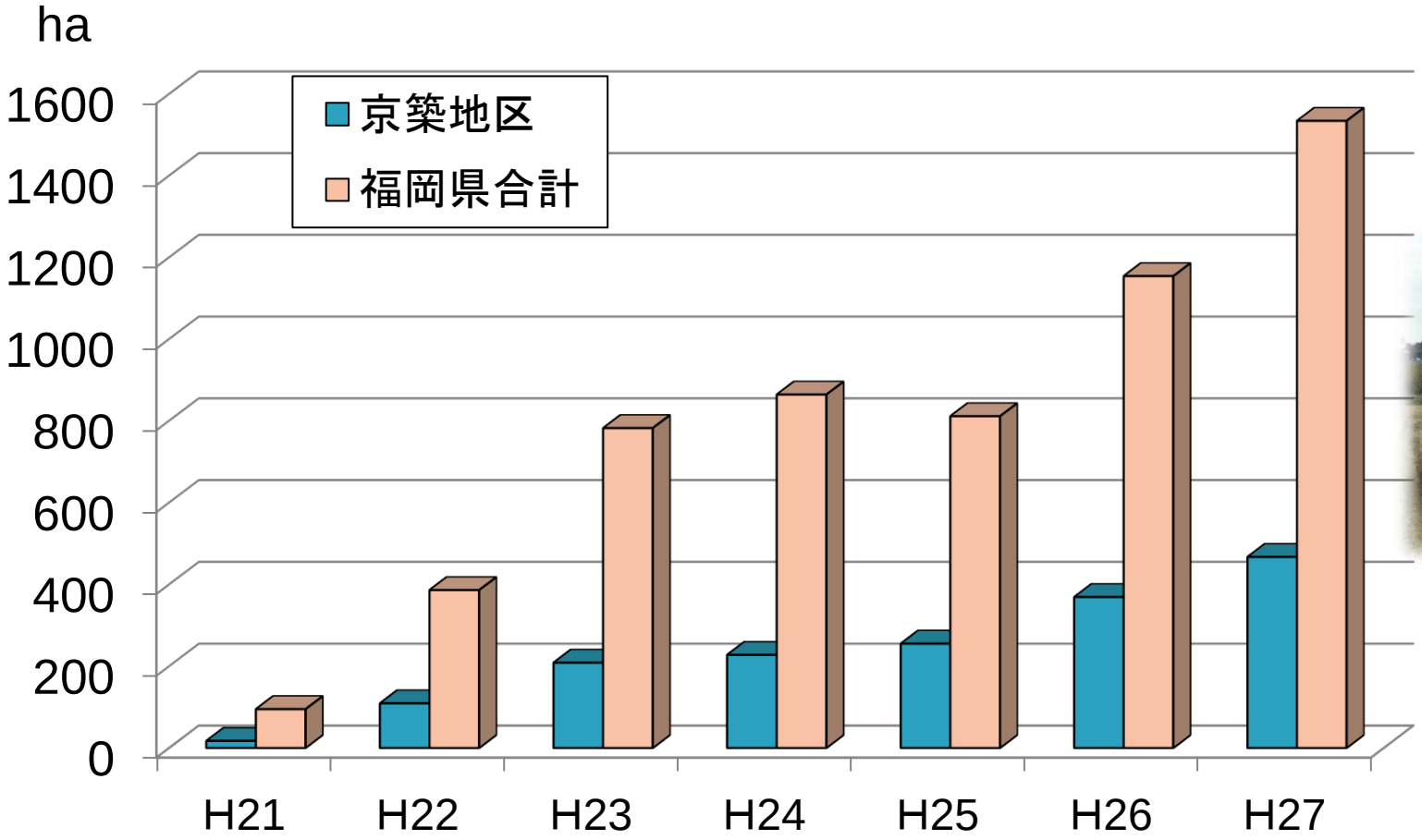
さらに築上町で生産する米は

城井ふる里村の乾燥鶏糞を施用することで、

一般主食用米よりも約25%多く取れている

# ２－１．４　飼料用米の利用について

## 福岡県と京築地区の飼料用米作付面積の推移



「京　築　地　区」　　の作付面積は、福岡県全体の**約３０％**

「城井ふるさと村」向けの作付面積は、京築地区全体の**約１０％**

# ２－１．５　飼料用米の利用について

## 飼料用米受け入れの流れについて

1 耕種農家
飼料用米
生産・乾燥

2 ふる里村
受入後、
計量・検査を行い、
倉庫へ保管
**17円/kgで買取り**

3 ふる里村
モミのまま
自家配合

4 ふる里村
鶏に給与
（トウモロコシ代替率
100%、70%）

5 ふる里村
乾燥鶏糞を
水田に還元
**240kg/10a施用**

**循　環　型　農　業**

# ２－２．１　鶏への給与方法

- 自家配合方法について
  - ・モミのまま混ぜ合わせる
  - ・魚粉やカキガラなど天然の飼料を使用
  - ・産地のはっきりした原料中心に
  - ・季節に合わせたオリジナル飼料
  - ・抗生物質、着色料、アミノ酸は不使用

配合前の飼料用米

| 卵種類 | 給与羽数 | 生産量 | １個あたり価格 |
|---|---|---|---|
| 米卵<br>（代替率100%） | 1,000羽 | 20t | 35円 |
| 通常卵<br>（代替率70%） | 19,000羽 | 380t | 20円 |

# ２－２．２　鶏への給与方法

## 配合割合

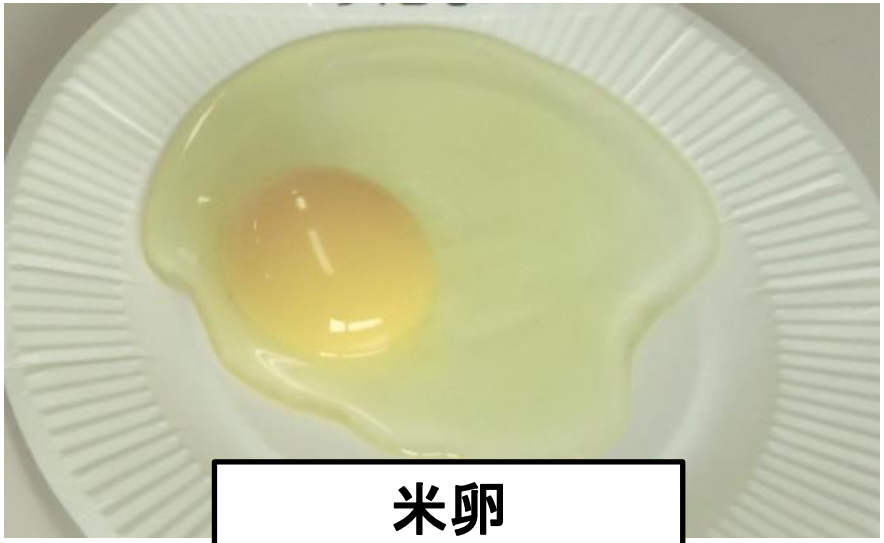
| 原料名 | 通常卵<br>（代替率70%） | こめたまご<br>（代替率100%） |
|---|---|---|
| 丸粒トウモロコシ | 19.5 | 0.0 |
| 飼料用米 | 45.5 | 65.0 |
| 魚粉 | 5.0 | 5.0 |
| 大豆カス | 6.0 | 6.0 |
| 生ヌカ | 4.7 | 4.7 |
| アルファルファミール | 3.0 | 3.0 |
| カキガラ | 4.0 | 4.0 |
| コーングルテン | 5.0 | 5.0 |
| 炭酸カルシウム | 3.0 | 3.0 |
| その他 | 4.3 | 4.3 |

# ２－２．３　鶏への給与方法

とうもろこし代替率70%

とうもろこし代替率100%

通常卵



米卵

# ２－３　飼料用米のメリット

## 畜産農家として

・循環型農業へ貢献できる。(乾燥鶏糞の施用）

・モミのまま給与するため、鶏糞が低水分であり臭気が少く、また乾燥しやすい。

・モミを消化するため、砂ズリが大きくなる。

・生産した卵に付加価値が付く。（ブランド化）

## 耕種農家として

・水田活用の直接支払交付金を受け取ることが出来る。

・戦略作物助成（55,000~105,000円/10a）

・多収性専用品種への取組（12,000円/10a）

・モミスリの手間が不要。

・地元で消費するので運送費、保管費が不要。

# ２－４　飼料用米を給与し始めて

## 失敗したこと、工夫したこと

○配合飼料の原料として、炭カル（粉）を入れた場合、モミがうまく消化されなかった。

→炭カル（粒）2mmに変えることで改善された。

○着色料をまったく使用しなかったので、卵黄色が白色になり消費者に受け入れられなかった。

→コーングルテンを数％加えることで、薄黄色になり、消費者に受け入れられるようになった。

○飼料用米に異物としてワラが混入しており、自動給餌器が詰まることがあった。

→ふるい機を計量機の前に設置することで、異物を取り除くようにした。

# ３－１　ブランド化への取り組み

H19～21年は飼料用米を給与していたが、通常の「こめたまご」として販売していた。

↓ 他の養鶏場で作っている「こめたまご」との差別化を図るためにH22年から

以下の条件を満たしている卵のみを **築上の米卵** と名付けた。

- 京築地域でとれた飼料用米のみを使用している
- トウモロコシの代替率100%である

# ３－２　ブランド化への取り組み

信頼や知名度の向上、販売店舗の拡大を図るため、

H22年「築上の米卵」についての紹介用パンフレット、DVDを作成し、
生協の組合員などに配布を行った。

パンフレット

ＤＶＤ

当初、販売店舗は生協4店舗のみであったが
徐々に拡大していき、
現在では、生協以外の店舗も含め、合計で18店舗まで拡大した。

# ３－３　ブランド化への取り組み

その他にも

## 県内のイベントに参加し、鶏卵の配布

# 4　今後の課題・要望

○水田活用の直接支払交付金の耕畜連携助成（資源循環）について、

鶏糞を施用した飼料用米生産も認めてほしい。

○配合飼料の原料をすべてトウモロコシ代替率100%にするため、飼料用米使用量を増やしていきたいが、耕種農家との契約が単年契約であるため、次年度も飼料用米を確保できるか不確定であること。

→耕種農家にメリットのある政策が必要

○作付面積の大きい営農組織はあるが、その組織は乾燥機を持っていないため、受け入れることが出来ない。

→作る側の供給体制の整備が必要

# ご清聴ありがとうございました

https://www.kiifurusatomura.shop/